

(別記)

2019 年度御船地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当町の農業は、平坦地域と中山間地域に大別され、平坦地域の水田における農業は、水稲と麦等の土地利用型農業が中心で、葉タバコ農家を核としたWCS用稲の作付けに加え、近年は大豆の作付面積が増加している。

また、中山間地域においては、水稲と露地野菜の作付が中心で、豊かな水と気候を利用した農業が営まれている。

一方、農家の高齢化や後継者不足が進んでおり、特に中山間地域においては、有害鳥獣被害の問題も抱えており、農業人口の減少や、耕作放棄地の増加などが深刻な状況で、水稲作付面積の維持が課題となっている。

さらに、平成 28 年 4 月に発生した熊本地震及び同年梅雨時期の豪雨により、農地の亀裂やあぜ・法面の崩落、用水路の破損が各地で発生し、棚田の多い中山間地を中心に甚大な被害もたらされ、農地・農業用施設を復旧するにも個人負担が大きく高齢化や後継者不足も重なり、離農を考える農家が多数見られる状況となっている。

震災から 3 年が経過し、農地等の復旧は進捗しているものの、完全復旧の時期については、未だ見通せない状況となっている。

2 作物ごとの取組方針等

町内の約 1,023ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、平坦地域では、主食用米と麦の組み合わせや、葉タバコ・飼料作物等と新規需要米や加工用米の組み合わせを、中山間地域では、主食用米と露地野菜の組み合わせによる水田フル活用を実現する為、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大及び農地の保全を図ることとする。

(1) 主食用米

米については、ヒノヒカリを中心としてJAや御船共栄（株）認定方針作成者の指導により全農家に栽培履歴の記帳を徹底させ、安心して食べられる高品質・良食味米の生産に取り組み、特に中山間地域においては、吉無田高原の湧水を生かした湧水米・減農薬米等の付加価値を付けたブランド化を行い、高く販売出来る米作りを推進し農業経営の向上を図る。また、農家所得を確保していく為、新規需要米等へ誘導を図りながら、配分された生産数量目安での生産を確保する。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

産地交付金を活用し、団地化の取り組みを支援し、需要に応じた作付けの推進を図る。また、耕畜連携（資源循環）による水田の地力維持に取組み、水田利用率の向上に資する支援を行っていく。

イ 米粉用米

米粉を使った加工品については需要が高まっている。今後は米粉用米の需要が高まることが見込まれるため、作付けを推進する。団地化を推進し、生産面積の拡大を図る。

ウ WCS用稲

WCS用稲については、葉タバコ農家の主要転作作物として、今後も生産活動を行う組織育成を図り、安全で高品質な自給飼料の確保に努め、現行の面積を維持する。

エ 加工用米

生産拡大にあたっては、団地化を推進し、当町の担い手に対する加工用米への加算も併せて行うことで、生産面積を維持する。産地交付金を活用し、担い手（人・農地プランに位置づけられた生産者、以下同じ。）への作付集約を推進するとともに生産の団地化を図る。二毛作による水田の有効活用についても振興する。

オ 備蓄米

主食用米の価格と比べ遜色ないなど取組農家にとってメリットが大きいことから、県別優先枠の範囲でJAや御船共栄（株）等の集荷業者が策定する生産計画に基づき、配分枠の全量生産を目指す。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦、大豆については、JAや御船共栄（株）等の集荷業者の栽培技術指導のもと実需者の需要に応じた新品種の導入について積極的に取り組む。また、排水不良の圃場については、国の事業を活用し、暗渠の施工を行い、品質向上や二毛作による水田の有効活用を推進しながら作付拡大を目指す。

大豆については、熊本地震後の町の振興作物の一つとして位置づけ、産地交付金を活用し、担い手への作付集約を推進するとともに生産の団地化を図る。

飼料作物については、産地交付金を活用し二毛作の取り組みを振興すると共に、耕畜連携（資源循環）による水田の地力維持に取組み、水田利用率の向上に資する支援を行っていく。

(4) 高収益作物（園芸作物等）

当地域の特色である、吉無田高原の豊かな水を利用した少量多品目の露地野菜をJA等の栽培技術指導のもと、「吉無田高原野菜」としてブランド化を行い、付加価値を付けた販売を図るとともに、露地野菜以外の作物についても、農地保全などの多面的機能を維持するために非常に大きな役割を担うことから、これまでと同様、産地交付金において支援を行いながら、今後作付面積の維持・拡大を図る。

(5) 重点振興作物（ほうれん草、小松菜、菜花、菊芋）

震災からの営農再開に先立ち、ほうれん草、小松菜、菜花、菊芋の4種を地域の重点振興作物として位置づけ、作付を推奨し団地化することで、作付面積の拡大を図り、産地化を目指す。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	525.4 ha 2,795 t	530 ha 2,819 t	540 ha 2,878 t
飼料用米	8.8 ha	10 ha	10 ha
米粉用米	0 ha	2 ha	3 ha
新市場開拓用米	0 ha	0 ha	0 ha
WCS用稲	54.3 ha	52 ha	50 ha
加工用米	6.2 ha	5 ha	5 ha
備蓄米	0 ha	0 ha	0 ha
麦	118.7 ha	115 ha	115 ha
大豆	14.2 ha	18 ha	20 ha
飼料作物	17 ha	18 ha	18 ha
そば	0.2 ha	0.5 ha	0.5 ha
なたね	0 ha	0 ha	0 ha
その他地域振興作物			
<ul style="list-style-type: none"> ・野菜 ・重点振興作物 ・花卉・花木 ・果樹 ・雑穀 ・地力増進作物 ・景観形成作物 	5.7 ha 1.1 ha 5 ha 7.1 ha 0 ha 1.3 ha 6.7 ha	5.9 ha 3 ha 5 ha 7.1 ha 0 ha 1.1 ha 5 ha	6.1 ha 4 ha 5 ha 7.1 ha 0 ha 9 ha 3 ha

※主食用米の目標値（2019、2020年度）において使用した単収は 532kg/10a

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
				2018年度	2020年度
1	大豆	担い手加算 （基幹作）	面積	11.1 ha	15 ha
			収量	128 kg/10a	140 kg/10a
2	加工用米	担い手加算 （基幹作）	面積	6.2 ha	27 ha
			収量	335 kg/10a	420 kg/10a
3	麦	担い手加算 （基幹作）	面積	1 ha	2.5 ha
			収量	253 kg/10a	310 kg/10a
4	麦	二毛作助成	面積	117.7 ha	90.5 ha
	飼料作物		面積	13.3 ha	18 ha
			水田利用率	88%	102.2%
5	米粉用米	団地化加算 （基幹作・二毛作）	面積	0 ha	1.4 ha
			集積率	0%	70%
	飼料用米		面積	0 ha	6 ha
			集積率	0%	33%
	加工用米		面積	5.1 ha	19 ha
			集積率	82%	70%
	大豆		面積	1.1 ha	2.1 ha
			集積率	7.7%	11%
重点振興作物	面積	0 ha	3 ha		
	集積率	0%	60%		
6	野菜	地域振興作物助成 （基幹作）	面積	27.7 ha	34 ha
	花卉			2.7 ha	3 ha
	花木			0.2 ha	0.5 ha
	果樹			0.2 ha	0.6 ha
	雑穀等			0.5 ha	1 ha
7	重点振興作物 （ほうれん草、小松菜、菜花、菊芋）	重点振興作物助成 （基幹作）	面積	0.8 ha	5 ha

8	地力増進作物 景観形成作物	営農再開準備期間助 成（基幹作）	地力増進作物面積	6.8 ha	4 ha
			景観形成作物面積	3.5 ha	3 ha
			販売作物面積	0.7 ha	8 ha
9	飼料作物 WCS、わら専用稲、 飼料用米	資源循環の取組 （耕畜連携）	取組面積	0 ha	(2021年度) 3 ha
			取組割合	0%	(2021年度) 16%
10	野菜、花き・花木、 果樹、加工用米	高収益作物等拡大加 算	野菜作付面積	28.5 ha	(2021年度) 41 ha
			花き・花木作付面積	2.9 ha	(2021年度) 3.7 ha
			果樹作付面積	0.2 ha	(2021年度) 0.6 ha
			加工用米作付面積	6.2 ha	(2021年度) 28.0 ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。